

第1部

森林と林業の仕事伝える

事

高校生等の林業就業促進現地活動

例

林業系技術公務員を目指す 専門学校生・高校生の現場研修会 北海道林業グループ協議会「北海道」



製材場で胆振東部地震による被害木利用を知る
札幌工科専門学校の学生たち

専門学校生を新たに加え
次世代に繋がる人材育成を

北海道林業グループ協議会（会

長・佐野大祐 以下、道協議会）
は、道内32の林研グループが加入
し、会員数は388名中、男性が

352名、女性が36名となっております。各林研グループの人数は4〜35名までと様々ですが、広大な北海道の各地で地域の森林・林業、木材産業の活性化に向けた活動に取り組んでいます。

道協議会ではこれまで毎年、高校生等に林業に関する専門技術や知識を習得してもらうとともに、林業への就業促進を図ることを目的とし、森林・林業に関するコー

スが設置されている岩見沢農業高等学校（以下、岩見沢農業高校）、旭川農業高等学校・帯広農業高等学校による森林科学科の生徒を対象にインターンシップ等（林業体験実習）を開催してきました。

令和5年度からは、

造園緑地科

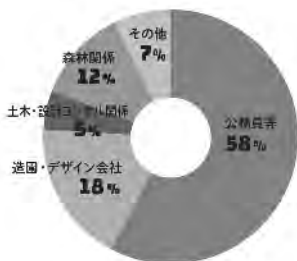


図1 札幌工科専門学校造園緑地科生徒の就職実績 (H29～R4年)

※資料：札幌工科専門学校ホームページより

森林・林業を学ぶ専門学校である札幌工科専門学校（以下、専門学校）を加え、4校を対象としました。これらの事業は、林野庁北海道森林管理局、北海道庁水産林務部、道内各地域の北海道（総合）振興局林務課・森林室、森林組合、林業事業者、林家等のご支援を受けて実施しています。その中でも今回は2つの研修事業を紹介します。

札幌工科大学専門学校の 森林実習現場見学会

9月14日(木)、北海道胆振総合振興局林務課、厚真町、苫小牧広域森林組合のご支援のもと、専門学校造園緑地科の学生を対象にした森林実習現場見学会を開催しました。

造園緑地科は、卒業生の約6割が公務員への就職という実績となっています(図1)。現場見学会には、将来、林業系技術公務員へ

の就業を目指す16名(1学年8名、2学年8名)の学生が参加しました。

当日は、あいにく雨が降る中で現地見学となりましたが、学生たちは熱心に現場を見学しました。

胆振東部地震 「森林再生の実施状況」現場

平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震により、林地崩壊が発生し4293haの森林が崩壊しました。被害を受けた厚真町、安平町、む



札幌工科大学専門学校の森林実習現場見学(厚真町)

かわ町では、森林被害を早期に復旧し地域林業の復興を図るため、治山施設の整備、林道等の復旧、森林の造成を行ってまいります。

学生たちは、①震災被害の状況確認、②復旧現場の状況と課題、③復興への取組と課題につ



崩壊地で森林再生の方法を検討

いて、現地を見学しながら検討を行いました。

現地が終わった後、厚真町総合福祉センターに移動し、室内研修として厚真町産業経済課森林再生グループ宮主幹から、厚真町が進めている森林災害復旧にかかる業務や進捗状況、今後の方向性などについて説明を受けました。

被害木の木材利用を知る

午後からは、むかわ町穂別にバスター移動し、苫小牧広域森林組合のチップ・製材工場及び木質ペレット製造場の見学です。ここでは、胆振東部地震森林再生現場から搬出された丸太などの木材利用について森林組合職員から説明を



厚真町役場職員の説明を受ける学生たち

受け、被害木がどのように活用されているか知ることができました。

学生たちの感想から

研修を終えた学生たちの感想を紹介します。

・災害復旧現場見学ということから通常の森林施業ではない現場でしたが、治山や森林の再生が

され、人々の生活や林業が安定して初めて復興になることがよくわかる研修でした。

・仕事として森林にかかわる目的がわかる体験だったと思います。

・北海道や厚真町、苫小牧広域森林組合で、現場で対応されているご担当者の方々と現場で直接交流を持てたことで、新聞報道ではわからない仕事を体感できました。

・都市部ではなかなか触れることができない林業の現場に行く機会をいただき感謝します。

・都市部ではなかなか触れることができない林業の現場に行く機会をいただき感謝します。

岩見沢農業高校 森林科学科の 職場訪問研修

11月16日（木）には、北

海道水産林務部森林活用課、林野庁北海道森林管理局総務課のご支援のもと、岩見

沢農業高校森林科学科2年生の生徒を対象にした職場訪問研修を開催しました。午前には北海道庁、午後から林野庁北海道森林管理局を訪問しました。

この職場訪問研修は、平成23年から実施しており、この研修を契機に多くの生徒たちが公務員試験を受験し、試験合格後は、林野庁職員、北海道職員として各地で活躍しています。

過去3年間では森林科学科卒業生の25%が林業系技術公務員への就職をしています（図2）。

過去3年間の卒業後の進路状況

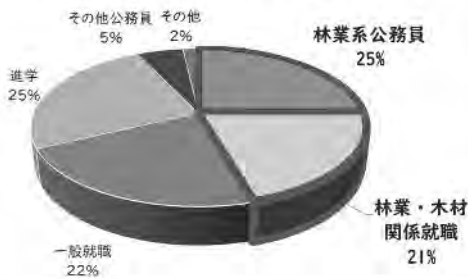


図2 岩見沢農業高校森林科学科生徒の進路状況（令和2～4年）

※資料：岩見沢農業高校提供

北海道庁水産林務部訪問

道庁では来庁者に木の良さを感じてもらい木材需要の喚起に繋げることを目的に、道産木材を使い1階ホールやベンチ・テーブル等を木質化しています。見学した生徒たちは木材に触れ木の良さを感じるとともに、北海道職員の業務の一端を知ることができました。

次に実際に業務を行う森林活用課を訪れ、どのような仕事をしているのかを見学しました。

この後、会議室に移動し、①北海道の森林・行政について、②北海道職員になって、③北海道職員の概要について、研修を受けました。

北海道が進めている百年先を見据えた林務行政や森林室・林務課の業務ついて、総務課の職員から話を聞きました。

現在、北海道職員として勤務している同校先輩からの講義では、生徒から多くの質問が出るなど、特に興味深く話を聴いている様子でした。また、職員となった場合の給与や休暇・厚生などについても説明を受けました。



森林活用課を訪ね、道職員の実務を見学

「ぜひ林野庁職員を目指していただきたい」と激励のお話があり、生徒たちも本日の研修のお礼を述べました。

どちらの職場訪問も、生徒たちに

「昨年までのコロナ禍が明け、今年度は過去3年間にはできなかった対面での研修を実施でき、リモート開催では十分に得られないコミュニケーション体験をすることができました。

この度の研修を通じて、技術や知識を習得することもできました。このことは、北海道における森林・林業、木材産業への就業機会の促

＊まとめ
北海道林業グループ協議会

今回の研修で、ご支援・ご協力をいただいた北海道胆振総合振興局林務課、厚真町役場、苫小牧広域森林組合の皆様、及び北海道水産林務部、林野庁北海道森林管理局の皆様へ感謝を申し上げます。

とって将来に向けた就業への夢やイメージをよりいっそう膨らませることができたものと思います。

おわりに

進を図るとともに、高校生等の次世代を担う担い手の育成・確保に繋がることから、協議会では、これからも取組を継続していきたいと考えています。

北海道森林管理局訪問

午後からは、札幌市中央区宮の森にある北海道森林管理局を訪問

生徒たちは北海道林務職員の雰囲気を実感することができ、進路として北海道職員を目指す意識の高揚を図ることができたと思います。

さらに詳しい説明を聞くなど、国有林行政への関心の高さがうかがえました。

研修講義の終了後には、道森林管理局長室を訪問させていたくことができ、生徒全員と引率の教諭が入室しました。吉村

研修講義の終了



森林管理局の業務説明を聞く



生徒たちから森林管理局長へのお礼の言葉

事

高校生等の林業就業体験等

例

林業大生が指導役 高校生の林業機械体験

北秋田森林・林業振興会「秋田県」



フォワーダ体験。生徒はツメがぐらついて焦ったが「ゆっくりでいいからね」と声をかけてもらい、落ち着いてできるようになった

し、曲げわっぱや桶樽の伝統技術が受け継がれています。天然秋田杉の伐採は現在禁止されていますが、この地域で見ることが出来る樹齢250年超の群立は圧巻です。

当会は、秋田県、大館市、北秋田市、上小阿仁村の4つの自治体と、大館北秋田森林組合や地元林業研究グループで構成されています。活動目的の1つに「森林・林業に携わる者の育成」があり、高校生への体験学習会を、平成27年の組織改編以前から約30年続けています。

高校生への体験学習を 林大生が指導

具体的な活動では林業担い手育成事業として、県立秋田北鷹高等学校緑地環境科・森林環境コースの1年生と2年生にそれぞれ年1

回ずつ、高性能林業機械操作体験学習会（以下、体験会）を行っています。

この体験会の一番の特徴は、秋田県林業大生（以下、林大生）が高校生を指導することです。4～5学年先輩の林大生による指導は高校生に大きな刺激を与え、たった1日の体験会にもかかわらず、教える方にも教わる方にも、目を見張るような成長を促します。

この取組が始まったのは、以前林業大学の敷地で実施していた時で、当会の人手が足りなくなっていたので、林大生に試しにお願いしてみたところ、予想をはるかに超えた効果が得られ、定着しました。高校側も林大側も年間授業計画に組み入れており、当会では日程調整や打合せ、当日のスケジュール管理など運営の下支えをしています。

北秋田森林・林業振興会（以下、当会）が活動している大館北秋田地域は県北部、奥羽山脈を背景に

した米代川流域にあります。約8割が森林で、秋田杉の産地として昔から林業のほか木材加工が発達

林業機械体験学習会の実施

今年度は、9月4日(月)に1年生22名に対し、林業大学の敷地内で、チェーンソー、グラブプ、フォワーダ、ハーベスタ、バックホウの5つの林業機械体験学習会を行いました。

10月31日(火)には、2年生6名が上小阿仁村にある林大実習林で実際の現場作業に近い体験学習会を実施しました。この時の様子を詳しくお伝えします。

体験会に先立ち、林大生は教え



前例は高校生、後方に林大生。
地域一帯にツキノワグマ出没に関する警報が発令中だったが、溢れる活気で弾き飛ばしているかのようだ

る内容や安全ポイントを考え、前日には実習林に行つて4つの体験学習コースを整備するなど準備をしました。1機種2〜3人で担当します。

高校生は4つの班に分かれ、班ごとに4コースを巡り、午前と午後で2巡します。

大人は安全確保に努め、林大教員が各コースに張り付き後方支援当会会員が流れを見ながら高校生を誘導しました。

ハーベスタ体験コース

やってきた高校生とハーベスタ



ハーベスタ指導では、安全な作業とホースを損傷しないように、手元を見るだけでなく、視野を広くもつよう心掛けている

に向かつて歩きながら、指導係の林大生が「やったことある？」とたずねると高校生は「1年生の時一瞬だけ」と返答し、若者はその短い会話でもう打ち解けています。高校生が操縦席に座り、指導係は手元がよく見える位置に立つて手順を指示。エンジンがかかると両者とも集中した顔つきで、アーム

で掴んだ丸太を2mに玉切つて旋回しながら後方に積み上げました。待機している方の高校生は、アームの届かない位置で別の林大生から解説を受けています。時間を管理しながら進行する係と、安全や状況を見て指導者に伝えるバックアップ係に上手く役割分担できていました。

森林環境コースの生徒は通常20数名いますが、たまたまこの学年だけ極端に少なく、例年なら1種類の体験時間を1人20分で設定しているところ、今回は30分から40分も使え、林大生は「やべえ、こんなにじっくりやったら俺より上手くなるじゃん」と笑っていました。

林大生に指導のポイントをたずねると「どれだけわかりやすく教えられるか、を考えています」。そして「生徒の安全と、機械を壊さないためには、教えながら周りも見る必要があるので、視野を広くもつよう心掛けています」。

ハーベスタから降りてきた高校



ワイヤーでの荷掛け作業は初めての高校生と横に並んで指導

生は「はじめ緊張したけど、(林大生が)何でも聞きやすい雰囲気を作ってくれて、上手くできたら褒めてくれたりして、仕事としてやっていける自信ができました」。

フォワード・グラップル・チェーンソーの体験コース

フォワードのコースでは、アームの操縦席に上る手足の掛け方など些細な動作の1つ1つまで手本を見せ、アームのエンジンをかけると、回転数が上がりすぎないようにスロットルの位置を手を添えて教えています。丸太をつかむツメが大きくぐらついた時「いったん



チェーンソー基本動作を教える林大生。1人が手本を見せ、もう1人が解説した



次のコースの順番を待つ間に丸太に座って談笑。この時間も貴重な体験学習だ

止まって。もっとゆっくりでいいからね」と声をかけてもらい、高校生は気を取り直し、もう一度挑戦していました。

指導係と、分担して当たり、材が安全に到着するまで緊張を緩めず、大変な運動量でした。

チェーンソーコースでは玉切り

グラップルではウインチを使って材を引き上げる実習です。2人の高校生が斜面で荷掛けする係と、グラップル操作係に分かれて作業します。4人の林大生が、ワイヤーの扱い方や立ち位置など指導する係、ワイヤーと丸太の動きを見張る係、操縦の



高校生にはフォワーダで林道を走るのが人気だが、林大生は危険がないよう慎重に誘導していた

令和5年度 秋田北鷹高校緑地環境科
(森林コース)の進路状況(林業分野)

進路先	人数
東京農業大学森林総合学科	1
秋田林業大学校	1
秋田県職員(林業)	2
森林組合	1
国立研究開発法人 森林研究整備機構 (旧森林開発公団)	1
木材加工会社	3

と伐倒木の枝払いをします。まずチェーンソーの基本動作から。1人の林大生が高校生の横に立ち、自分もチェーンソーを持って一緒

に動作をしながら手本を見せ、もう1人が口頭でアドバイス。これ以上わかりやすい教え方はないと思われるやり方です。安全動作が習慣化されるよう何度か繰り返してから玉切り、枝払いをしていました。

次のコースへの待ち時間ができた時、高校生と林大生が並んでしゃべっている場面があり、進路の話をしていました。

高校の先生は「この体験学習会がなければ林業を仕事としてイメージできない子も多いんじゃないかな」と言い、実際に今年の3年生23名中進学を含め9名が森林・林業関係我希望しています。「体験会は生徒たちの進路選択にもの

すごく役立つと思います」と話していました。

林大生の方では、教えることによる技術向上だけでなく、安全対策や仲間との連携を客観視できるようになり、職業としてのスキルが各段に向上します。

当会は会員の減少や予算不足など厳しい状況にありますが、このように双方が成長し合う相乗効果を目の当たりにすると、来年もまた頑張ろうと決意を新たにします。

帰り際のハプニング

高校生が帰路に着き出発しようとしたその時、事件は起こりました



林大生がスリングを引っ張り、高校生はバスを後ろから押した

た。バスがぬかるみにハマって立往生。タイヤはもがくほどに埋もれ、不安な空気が漂い始めた時、現場の片づけを終えた林大生たちがやってきました。

「全員で押せば出るんじゃないね?」。しかし泥は深くバスは重い。「グラップルだな」、教員の一言で接続するためのスリングを持ち出す者、それが短いとわかると2本をシャックルで繋げる者、荷掛けの要領でバスと繋ぐ者、一瞬で準備が整いました。「これなんだよ、林業技術の素晴らしさは」と教員。学習の成果全開の動きに、どんな災害が起きるかわからない時代でも、彼らは力強く切り抜けるに違いないと、その場にいた関係者全員が思いました。グラップルの到着を待つ間、林大生が綱引きのようにバスの引っ張り、高校生は後ろから押して、まるで運動会。山に爽やかな笑い声が響き渡っていました。

*まとめ 編集部

事

高校生等の林業就業体験等

例

除伐、丸太切り、ツリークライミング、 道具を使い、身体を動かす林業体験

南信州林業研究会「長野県」



ツリークライミング体験
アドバイスを受け地上6mを目指す

長野県南部を拠点とする
活動団体

南信州林業研究会（以下、当

会）が活動する長野県飯田・下伊
那地域は県の南部に位置し、森林
面積は約16万7000haで長野県

下全森林面積の16%を占め、森林率は86%と長野県平均の78%を上回っています。民有林面積は約13万6000haと管内の82%を占め、うち人工林率は48%となっております。うちヒノキの割合が高いのが特徴です。

当会は昭和39年に林業青年グループとして発足し、その後、林業経営者協会や林業士会などのグループが一本化して現在に至ります。令和5年3月末現在の会員数は63名で、12支部によって構成されています。

山の恵みを味わう 研修科目

当会は、高校生等の林業就業体験等の研修として、森林や木材の多様な活用方法と作業体験を通じ

て林業の入り口に立つてもらおうことを目的に、長野県立下伊那農業高等学校（以下、下伊那農業高校）アグリサービス科の2年生を対象に実施しています。当会の会員3名が講師となつて、ツリークライミングの見学や伐倒作業の見学を行ったのち、作業種別毎にグループ研修を行います。

20年前までは下伊那農業高校に林業科がありました。現在には授業そのものがなくなっているため、この研修は生徒たちに楽しんでもらうことを念頭に置いています。また、当会の伊藤会長手作りのキノコ汁を全員で味わうことも研修の一環としてスケジュールへ組み込み、毎回好評です。

今年度は10月20日（金）に生徒15名を対象として研修会を行います。



会長手作りのキノコ汁を味わう いい匂いにつられて自然に笑みがこぼれる



林業体験研修会レイアウト 各班に分かれて体験した

した。開催日を決めるにあたり、下伊那農業高校のホームページから年間行事予定表を打ち出した上で講師の方々から聞き取った日程を重ねていきますが、学校の行事も多種多様、かつ校外活動が可能となる時間帯も限られ、昼食を組み合わせる調整が思うように進まず苦労しました。荒天用の屋内プログラムも一応準備しつつ、開催

日間近になるにつれ複数媒体の降水確率を見比べて気をもむ日々が続きましたが、何とか天候も持ちこたえてくれて屋外での開催を迎えました。研修会場には飯田市北三区財産区の御協力のもと、飯田市街地や南アルプスが一望できる佐倉神社周辺をお借りしました。こちらはトイレや水道も整備されているた

め、快適に過ごせる場所となっています。13時過ぎに生徒を現地へ迎え、始まりの会のあとに昼食をとります。大鍋2杯のキノコ汁には大量の野菜と13種類もの天然キノコが食材として使われており、「初めて食べるキノコもあって美味しかった」「2杯もおかわりしてお腹いっぱいになった」等々、生徒た

ちは喜んで味わっていました。腹ごしらえができたところで、いよいよ実習に入ります。

「カッコいい林業」と「緻密な林業技術」を体験

初めに、ツリークライミングの元日本チャンピオンであり、国際大会での入賞経験もある松岡さんに樹上作業の実演してもらいました。スポーツ選手が躍動する姿を見て「カッコいい」と感じるのと同様に、林業に携わること自身の姿を「カッコいい」と感じてもらえるよう活動発信をしていると説明してもらった後、会場敷地内にあるサクラの巨木に掛けられた複数のロープを操りながら木を傷つけないよう高所の枝から枝へ軽々と移動を繰り返し、ロープに身体を預けて枯れ枝を切る姿を見せてもらいました。

最初は何が行われるのかわからずに不思議な表情をしていた生徒たちも頭上で素早く移動する松岡さんの姿を見て、「移動速度も速く、楽しそう」「人間の動きとは思えない」等々、歓声を上げていました。



樹上作業見学 頭上6mの松岡さんの俊敏な動きに歓声が上がった

徒全員から歓声が上がりました。

その後は手鋸を使って各自枝払いの体験に入りますが、チェーンソーの作業スピードと比較してなかなか進まない手鋸作業に四苦八苦していました。

また、伐根まで近づいて実際にツルを触りながら解説を受けた生徒たちからは、「伐倒は力づくではなく計算されていることを知って驚いた」「伊東さんが常に安全確認をする姿が印象的だった」「伐採木周辺には芳香剤のような好い香りがした」等の声が聞かれました。

初めて使う道具・初めて行う作業

【参道付近の景観整備作業体験
くツツジやサクラの美しい
参道をつくること】

休憩をはさんで3班に分かれての体験学習になります。1班は剪

定バサミと手鋸を併用した除伐作業です。講師の伊藤

会長から切るものと残すものの見分け方や道具の使い方について説明を受けたのち、敷に入って作業を始めますが、切っていないものかどうかの判別を何度も講師に確認する姿が印象的でした。

ツツジを傷つけないように気を配りながら作業を終えた生徒からは「来年きれいなツツジやサクラが見られると思うとやってよかった」「剪定バサミの使い方が学べてよかった」「伐採作業も大変だったが伐採したものを指定場所まで運ぶのも大変だった」等、そ

続いて財産区所有の森林へ移動し、チルホールが設置されたヒノキを見ながら南信州地域振興局職員より森林の持つ機能や手入れの必要性に加え、伐倒する方向を決める際の技術について説明を聞いたのち、林業士の伊東さんの実演による伐倒作業の見学になります。チェーンソーを用いて受け口と追いつきが出来上がり、生徒代表がチルホールを操作してヒノキが倒れる瞬間を目の当たりにすると、生



伐倒後の枝払い 初めての手鋸作業を慎重に進める生徒



景観整備作業 ツツジを傷つけないように

それぞれの感想がありました。

【木の利活用体験
～鋸を使って丸太切りをしよう～】

2班は講師の伊東さんに持参いただいた直径20cm程の丸太を手鋸で切る作業を行います。交代で切り始めていきますが、切り口がずれたり作業スピードが上がらなかつたりと思うような作業が行えず苦労の連続でしたが、講師から力を入れ方を助言されると効率も上がっていきました。作業終盤に

なるとグループ毎のタイムレースが始まり、今回の研修で一番の歓声が上がっていました。

「鋸を引く時に力を入れることを意識したらスムーズにいき3連勝できた」「切りたての丸太からはモデルルームの匂いがした」等の感想がありました。

【樹上作業体験
～プロの技を教えてもらおう～】

3班はツリークライミングの体験になります。個人毎に安全装備

を整え、緊張した面持ちで講師の松岡さんから受けた説明通りに身体を動かしますが、腕の力だけで登ろうとするため、なかなか上へ行きません。そのうちに足の使い方を覚えると上手に登れるようになり、サクラの一番上まで登る生徒もいました。

「身近で見る講師のスピーディーな動きに驚いた」や「ロープ一本で自分が持ち上がっていく感覚が不思議だった」「最初は不安だったけれどやってみて楽しかった」等の声が聞かれました。

約40分間の班別体験学習を終え、終わりの会では生徒代表から「昼食から作業までとても楽しい時間を過ごせた」「この地域で林業に関わっている人々を知ることができた」といった感想が聞かれました。

【未来の林業を支える一端として】

学校関係者と事前打合せを行った際に「ネットからの情報は溢れているが、生徒たちは自分が興味のあることのみ検索しているため、林業に関して検索することはまず

ないのでは（林業というものはほぼ知らないのでは）」とお話をいただきました。また講習の中で松岡さんからは「今まで【カッコいい林業】について発信されておらず、林業が若い世代から憧れの対象になっていないため、関係者が周知の仕方を構築していったほうがよい」とのお話をいただきました。

様々な情報が溢れている現代ですが、自身の目で見て身体を動かすことは何より貴重で大切なことだと思います。生徒から「来年以降もぜひこの研修を続けて欲しい」との声を多数聞いて、やりがいと同時に継続していく責任を痛感したところです。

また、この研修の講師をお願いした林業に携わる地域の方々、次代を担っていく若い世代の方々に繋げることも重要な位置づけとなることから、今後もこの取り組みを続けていきたいと思えます。

＊まとめ

南信州林業研究会 事務局



丸太切り作業体験 慣れてくるにつれ速度も上がっていく

事

高校生等の林業就業体験等

例

ツリークライミング体験で 木と友だちになるきっかけ作り 高根町林業改良クラブ「岐阜県」



飛騨高山高校でのツリークライミング体験

上田康美こづみ会長です。上田会長は山仕事に従事する傍ら、ツリークライミングインストラクター、ログビルダーの顔も持っています。

11月中旬、クラブの指導で開かれたツリークライミングの体験会を訪ねました。会場は岐阜県立飛騨高山高等学校（以下、飛騨高山高校）山田キャンパスの実習林で、環境科学科の生徒が参加しました。

**乗鞍岳、御岳山も
一望できる高山市高根町**

当クラブが活動している高山市高根町は、北に乗鞍岳、南に御岳山と2つの3000m級の山を一望できる自然豊かな山里です。ノンフィクションや映画『あゝ野麦峠』で有名な野麦峠も高根町にあります。



上田会長が手がけたログハウス

「みんな、この景色を見て感動するんだよ。過疎だけど、こんないいところは他にないですよ」と上田会長。

クラブの設立は昭和45年ですが、林業の低迷期とともに活動は停滞し、それを復活させる形で平成17年に上田会長たちが引き継ぎました。現在は林業会社に従事する50

「木に登り、木と友だちになることによって、木や自然を身近に感じ自然を大切にするようになる

んですよ」

そう語るのは岐阜県の高根町林業改良クラブ（以下、クラブ）の

60代の3名が会員です。

主な活動は、①森林の生物多様性に関する講義、②ツリークライミングに利用している大木の樹勢回復に向けた活動、③チェーンソーカービング)、ツリークライミングの見学・体験などです。

ログハウス、ツリークライミングの世界へ

上田会長は20代から山に入り伐採などの仕事をしてきました。朝6時に出勤して帰宅は夜7時頃。冬はマイナス20℃以下になります。体力的にも厳しく、このまま続けて将来はどうなるのだろう、という思いもあつたそうです。

そんな時に倉本聰氏のドラマを観て、ログハウスを知ります。日本からカナダに渡った若者の奮闘記で、ログハウス作りを手伝うという話がありました。

このカナダのロケ地でログハウススクールの参加者を募集しているという企画を見つけたとたん、「頭が真っ白になった」と上田会長。30歳の時でした。このスクールには受講生やインストラクター



体験を前に生徒に話しかける上田会長



手伝ってもらいながらサドルなどを付ける

で3回参加。その後、冬は山仕事を休んでカナダに行くという生活が10年ほど続き、日本ではこれまで10棟ほどのログハウスを手がけ、チェーンソーカービングにも取り組んできました。

その上田会長がツリークライミングと出会ったのは40代のこと。飛驒の林業を盛り上げる道を模索していたところ、友人でもある俳優の故・渡辺文雄さんから紹介されたのです。

山の仕事を生業とし、木を知る上田会長ですが、初めてツリーク

ライミングを体験した時の感動は忘れられないそうです。

「すごい！こんな景色があるんだ！という驚嘆ですね。どんなに高い山で仕事をして、山の地面に立っているだけ。そこに立つ木の上に登った時、ほんとうに山と一体になったような、身体が解放される感覚を味わいました」

飛驒高山高校 環境科学科の生徒たち

ツリークライミングの体験会が行われた飛驒高山高校は、高山市内にある岡本、山田という2つのキャンパスと、全日制、定時制、通信制の3つの課程を持っている県下最大級の学校です。

岡本キャンパスには普通科、商業科、生活産業科があり、山田キャンパスには食の農学科群(動物科学、食品科学)と緑の農学科群(園芸科学、環境科学)の4つの大学科、8つの小学科があります。緑の農学科群は1年生では全員いっしょですが、2年生になると園芸科学科と環境科学科に分かれます。

今年度（令和5年度）、緑の農学科群の1年生は46名、環境科学科の2年生は21名、3年生は16名です。環境科学科の生徒はさらに森林コースと土木コースとに分かれます。

高校実習林でツリークライミング体験

11月11日に開かれたツリークライミングの体験会。当日は土曜日でしたが、朝から環境科学科の2年生と3年生の希望者4名が参加しました。



10mくらいの高さまで登る生徒たち

クラブからは応援の人も含め上田会長以下4名が参加しました。みなツリークライミングジャパン（TCJ）公認のライセンスを取得しています。

「体験会を安全に進めて行くには指導者はそれなりの人数が必要なんですよ」と上田会長。

実習林の前でスタッフも生徒も、そして取材者もまずヘルメットの装着から始まります。

最初は高木にロープを取り付けるロープセッティング。枝の股をねらって、ロープを付けた重りを

投げたり、「巨大パチンコ」のような器具を使ったり。「風が強くて、大変だよ」（上田会長）と言いながらも無事に取り付けることができました。生徒たちはそれを林の端から見学しました。

その後、生徒たちは手伝ってもらいながら、身体を支えるサドルなどを身に付け準備ができたなら、いよいよツリークライミングの体験

です。生徒たちを前に上田会長はこんな話をしました。

「ツリークライミングは、森に入り、木と友たちになって、自然を大切にすることを基本としています。木に登る時には『よろしくね』と声をかけ、降りてきたら『ありがとう』と言うと、木がパワーをくれるんです」

そしてロープの結び方を練習してから登ってゆきます。最初はぎこちなく、樹の上の方まで登れるのだろうかと思っていました。生徒たちはほとんどスルスルと10mくらいまで上がったでしょうか。若さですね。しばらく樹上の景色を楽しんでいました。

生徒たちはスタッフの方に「降ります」と言ったら合図を送ると、スタッフが「はい、ではロープから手を話して」との指示を出し、無事地上に戻ってきましたが、みな興奮冷めやらぬと言った感じでした。

「最初は高い樹の上に

登るので怖いと思ったけど、慣れてくると、風景が一変して気持ち良くなり、楽しかったです」と生徒の1人は話してくれました。

チェンソー技術の講習会も

上田会長たちは、11月24日（金）には、同じ飛騨高山高校の山田キヤンパスで、環境科学科の生徒を対象にチェンソー技術の講習会も行いました。

まずチェンソーの基本的な扱い方や注意点などを説明。その後、大きな丸太の上に小さな丸太を乗せて固定し、小さな丸太を球状に



丸太を球状に削ってゆく練習



リスを彫り上げてゆく上田会長

進学先は大
半が土木や建
築、ITビジネ
スなど工学関係
の大学、専門学
校ですが、森林
関係では岐阜県
立森林文化アカ
デミーがありま
す。また就職先
は、土木、建設

子どもたちを対象にした ツリークライミング

クラブのツリークライミングは、

り外したりしました。
おそらく馬搬を授業で取り入れ
ている学校は全国でもそうないで
しょう。地域の関係団体の協力が
不可欠ですが、そのための準備、
協力要請のために割く学校、先生
方の熱意に脱帽です。

高校生だけでなく小中学生など子
どもたちも対象にしたものが多い
です。

12月上旬には、同じ岐阜県内に
ある本巢林研クラブのツリークラ
イミング体験会に応援で参加して
きました。

「子どもたちは最初はガチガチ
に緊張しているも、登り始めると
緊張がほぐれ、心底楽しそうにな
るんです。自然には心を解放する
力があるんですね」と上田会長は
言います。

*まとめ 編集部

チェーンソーで削っていきます。
いわゆるチェーンソーカービン
グの基礎ですが、球を上手に作れ
るといことは、チェーンソーを
上手に操れる技術があるというこ
とを意味します。
上田会長が手本を示してから生
徒が削り込んでいきます。少しず
つ慎重に削り、球に近づけていき
ます。

コメントもありました。
講習会の後半には、見本として、
上田会長が大きなチェーンソー
本でリスを彫り上げました。かか
った時間は10分ほど。当日は雪が
降り出しそうな寒い日でしたが、
この時だけは寒さを一瞬忘れそう
な時間でした。

森の良き理解者、応援団に

飛騨高山高校環境科学科の生徒
の進路選択を見てみると、最近3

年間（令和2〜

4年度）では卒
業生69名のうち

進学者が25名、

就職者が44名で
す。

関係の会社が多く、森林関係で
は地元の飛騨高山森林組合など
があります。

このように森林関係へ進学、
就職する生徒は限られています
が、環境科学科の穂波輝樹教
諭は、「現在、山で働く仕事は、
私たちの目に触れる機会が少な
い産業です。今回のようなツリ
ークライミングやチェーンソー
アートの体験を通し、「森の良
き理解者」「森の応援団」にな
ってもらうきっかけになればと
思います」と語ってくれました。



子どもたちのツリークライミング体験会（本巢市で）

事

高校生等の林業就業体験等

例

1～3年生のグラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ体験学習会 京都府林業研究グループ連絡協議会「京都府」



3年生によるフォワーダ体験。
指示を受けながら操作に集中！

では会員の高齢化にともない活動を休止するグループもあり、現在

230名のうち男性が197名、

女性が33名と、全体の会員数は

年々減少傾向にあります。各グル

ープの規模は大小様々ですが、そ

れぞれの地域の実情に沿った活動を展開しています。

府林研協では、林業に対する関心を高め、生徒の林業就業の促進と支援を行うことを目的に、府内で唯一林業科が設置されている京都府立北桑田高等学校京都フォレスト科の生徒を対象として、高性能林業機械を使った造材作業の見学と、実際に林業機械の操作を体験してもらおう「高性能林業機械体験学習会」(以下、体験学習会)を毎年開催しています。平成20年から実施し、今年で14回目を迎え

ました。

グラップル、プロセッサ、
ハーベスタ、フォワーダ
操作体験

体験学習会の会場は学校から近く、府林研協の一員である京都市林業研究会の活動フィールドにもなっている京都市右京区京北の京都市市有林「合併記念の森」で開催しています。

1～3年生の生徒に操作体験をしてもらう林業機械は、グラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダの4種類各1台。グラップルとフォワーダは、学校で所有されているものを、その他の林業機械は、府林研協の役員が所有する林業機械を使用させていただき、生徒たちに林業機械の操作方法を

府林研協の活動

京都府林業研究グループ連絡協

議会(以下、府林研協)は、府内5つの林研グループと、青年部、女性部で構成されています。近年

指導する指導員として、学校の先生、府林研協役員、従業員の会社の方々に、お世話になっていきます。

開催時期は、年度によつて若干異なりますが、高校の年間カリキュラムに入れていただくことができることから、おおよ

そ10〜12月までの間に2、3日間開催しています。

令和5年度は、各学年1日ずつ、授業時間45分×4コマで、10月16日（月）〜18日（水）の3日間開催しました。

操作体験をしてもらう林業機械はグラップル、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダの4台であることから、事前に4つの班に分け、



プロセッサの操作方法を真剣に聞く1年生

1班1台45分のローテーションで生徒たちが4台すべての操作を体験できるようにしました。

また、操作体験の事前準備として、プロセッサやハーベスタでの造材作業に必要なスギ、ヒノキの伐採を、1日目は開催日当日の朝に、2日目、3日目の分については体験学習会終了後に約40本程度を、スタッフで伐採しました。

開催1日目 1年生の初！操作体験

1年生は、体験学習会も機械操作体験も初めてです。

まずは、どの林業機械の班も指導員から「どのような作業をする林業機械なのか」を丁寧に説明してもらった後、いよいよ生徒自身による操作体験です。いずれの機械も初めて操作するため、旋回の

方向を間違えたり、スピードを出しすぎたりと戸惑いながら操作していました。

特に、プロセッサとハーベスタについては、初めて実物を見る生徒もおり、その迫力に圧倒されるとともに大歓声が上がります。

生徒は指導員のアドバイスに耳を傾けながら造材に挑戦。しかし、なかなか上手に操作できず何度も何度も失敗していました。ようやく1本造材できた時の喜びや安堵した様子が印象に残りました。

開催2日目 前年体験したけど、 2年生の操作体験

2年生は、前年に少しですが林業機械の操作を体験しています。早速、4班それぞれが4種類の林業機械が設置された場所に分かれて待機。初めに指導員から機械の概要の説明を受けると、いよいよ操作体験の始まりです。プロセッサ、ハーベスタの班は、指導員同乗の



体験学習会終了後の集合写真。ほっとした表情を見せる1年生たち



ハーベスタで1本目を造材中（2年生）

もと操作方法を聞きながら、最初の1本を造材します。操作体験を見ている生徒からは、一定の長さで造材していく機械の動く様とチーンソー音に驚きながらも感嘆の声が上がります。

2本目からは、1人での操作です。指導員から教わった操作方法を思い出しながら真剣なまなざし
で挑戦しますが、こちらもなかなか上手く操作できません。しかし、指導員からアドバイスをもらいながら本数を重ねるうちにだんだんできるようになり、緊張でこわばっていた顔がほころんでいきます。フォワーダの班は、林内にある作業道を使用しての操作体験です。指導員から操作方法を聞き、1人



2年生によるフォワーダ操作。車幅や内輪差に注意をはらって

で運転します。車幅やカーブを曲がる際の内輪差に注意しながら慎重に運転していました。
グラップルの班は、指導員である先生から操作方法を聞きながらの体験です。短く切った丸太を縦に積み上げていきます。生徒たちは、丸太をいくつ積み上げられるかを競いながらゲーム感覚で操作体験していました。グラップルは、学校の授業でも使用していることもあり、他の林業機械に比べて上

どの機械も、1年生、2年生に比べ操作がスムーズで、プロセッサとハーベスタを操作する生徒の中には、指導員から「この子、操作上手いなあ」と褒められる生徒もいました。
また、グラップルの操作体験では、なかなか上手く積み上げられない生徒がいる中で、用意してあった丸太7個を縦に高く積み上げる生徒もおり、見学していた生徒たちも驚いていました。

手に操作してました。

**開催3日目
操作が
スムーズ！
3年生の
操作体験**

3年生は、過去に2回体験学習会を経験しています。復習も兼ねて、指導員から簡単な機械操作の説明をしてもらい、その分、操作体験の時間を長くとりました。

今後に向けて 継続

今年度も3日間の体験学習会が無事終了しました。終了後には、生徒代表から指導員の方々へ「授業では体験できない林業機械の操作体験ができました。将来のために役立てていきたいと思えます」とのお礼の挨拶がありました。

3日間を通して、生徒たちが真剣に操作する姿や、時には楽しそうな表情を見ると、今年度も開催して良かったなあと思います。

先生に感想を伺ってみると、「日頃の授業ではできない体験をさせていたれている。学校の年間カリキュラムにも入れているので今後も引き続きお願ひしたい」と、高い評価をいただいています。

一方で卒業後の進路については、「いろいろな理由があるとは思いますが、林業関係に就職する生徒は少ない」とのことでした。

毎年アンケートを実施していますが、3年生のアンケート結果では、残念ながら「将来『林業』に関わる仕事をしたい」と思う生徒は少ないのが現状です。



指示通りにプロセッサを操作する3年生。褒められた生徒もいた



グラップルで丸太7段積み上げ成功！



終了後、指導員や関係者にお礼の挨拶をする3年生

たちに林業への関心を高めてもらい、1人でも多くの生徒が新しい林業を切り拓く、若き林業の担い手として活躍してもらえよう、この高性能林業機械体験学習会を続けていこうと思えます。

先日、この体験学習会が「きっかけ」で林業に従事している卒業生に出逢う機会がありました。大変嬉しく思いました。

*まとめ

京都府林業研究グループ
連絡協議会

事

高校生等の林業就業体験等

例

学校・県と連携し、充実を目指す 就業に繋がる林業教室を

和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会「和歌山県」



完成したクリスマスリースを持って
生徒・教員たちと会員たち

女性林研部会の紹介

「木（紀）の国」和歌山県で唯

一の女性だけの会として、平成11年3月に発足した女性林研部会（以下、当会）は、林業や特用林

産物に携わる会員や森に興味のある会員で活動しています。

会員数は当初20名前後でしたが、ここ数年で29名になりました。森林・林業を勉強しながら、大勢の人にも興味を持ってほしいと試行錯誤しつつ活動してきて、25年目を迎えます。

平成15年から始めたヒノキの間伐材を使った押し花マグネット作りは、森林・林業の話とセットにして、小学生から大学生までを対象に体験講座を実施し、また各地の産業まつりや木の国わかやま木育キャラバンといったイベントにも参加して今なお大勢の人に喜ばれています。

高校生に向けた林業教室①

平成26年から2校の高校生に向

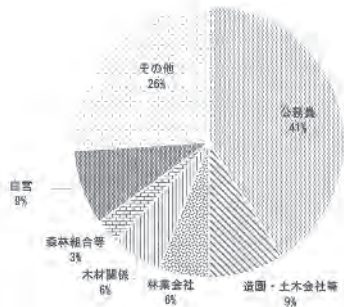
けて活動を始めました。1校目は、和歌山県立南部高等学校龍神分校（以下、龍神分校）です。「龍神材」で知られる田辺市龍神村にあり、学校の近くにある龍神村森林組合には良質の材が並ぶ木材市場があります。龍神分校は、県外と地元を含む県内の生徒が半々なので、地元の林業に対して温度差があることから、生徒へのアプローチの仕方や内容に配慮しながら取り組んでいます。

当初は、山の現状を知ってもらおうと、森林・林業や特用林産物の話から始めました。しいたけ栽培をしている会員がホダ木の伐採から植菌、乾燥、包装までを説明し、年間の売上高も公表、「一生懸命やれば、うまくいくよ」と。その後、持参したホダ木と駒菌で

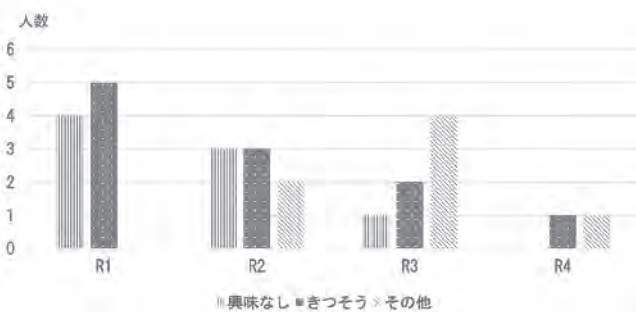
グラフ1 林業に関わる仕事がしたいか(累計)



グラフ2 グラフ1で「思う」「ある程度思う」と回答した場合 将来就きたい職業<複数回答あり>(累計)



グラフ3 林業に関わる仕事に就きたくない理由



・蔓を採り、リースの土台作り
 ・木の葉(イチイ、黄金ヒバ、サツマスギ、アオキなど)
 ・木の実(ドングリ、松ぼっくり、ヤシャブシ、西洋ヒイラギ、クログネモチなど)

の植菌作業はスムーズに進み、高校生には林家の生の声を聴き、実践できるいい機会になりました。

過去のアンケート結果から

毎年、林業教室終了後、生徒にアンケートを実施しています。直近4カ年(令和元年度~4年度)の龍神分校の主なアンケート結果はグラフ1~3の通りです。1では、授業実施後には「思う」または「ある程度思う」との回答数は実施前より増加し、「思わない」の回答数は減少に。3でも、年々

林業に「興味なし」の回答数が減少傾向にあります。

これらの結果から、林業教室により高校生の林業に対する理解が進んだのではと思う一方で、実際就業へと結びついているの不安もありました。生徒も毎回、真剣に取り組んでくれ、私たちも満足しながらも他にできることはないかと模索していました。

学校・県と連携した取組へ

そのような時、県から高校生により林業を知ってもらい、ひいて

は将来の就業に繋げる取組を始めるので、龍神分校の林業教室も一緒にとの連絡があり、喜んで受けることにしました。

新たな取組をより良いものにするために、何カ月も前から、高校側の意向も確認しながら、何度か打ち合わせを行いました。高校側からは、前述の通り、生徒には地元の林業に対する温度差があり、いきなり本格的に木を伐倒するより、まず1年生には林業を身近に感じることのできる授業、2年生には産業としての林業を体験でき

するような内容とし、単発で終わるのではなく、継続的かつ段階的な林業教室にしてほしいというものでした。

その意向を踏まえて県と内容を討議し、当会は1年生の授業を担当。県農林大学校及び県西牟婁振興局林務課と連携し、内容ごとに担当を分担し、実施していくことになりました。

準備に余念なし

授業内容の1つにハーベスタシミュレータの操作体験があり、私たちも事前に挑戦しようと研修会で講習を受けました。画面に向かい四苦八苦しながら、高性能林業機械のすばらしさを体験しました。

私たちメインの担当はクリスマスリース作りです。森の恵みである木の葉や実を使い、目や鼻で森を感じてもらうために材料集めに奔走しました。主なものとして

広い和歌山県に点在している会
員のお陰で、豊富な材料が集まり
ます。

講話、ハーベスタ シミュレータ、 チェーンソー体験

12月20日(水)、当会お揃いの
黄色いパーカーで、10時に集合。
1年生の男子5名と女子2名にス
ケジュールを説明後、いよいよ授
業に入ります。

最初は、県農林大学校の職員に
よる森林・林業の話です。パワ
ーポイントを使い、途中で私たち
員の活動地域での実情も交えなが
ら進めていきました。



県農林大学校の職員より森林・林業についての説明を
受ける生徒たち



ハーベスタシミュレータの操作に挑戦する生徒

ハーベスタシミュレータの体験
では生徒たちは緊張しながら取り
組み、他の人の操作も真剣に見入
っています。若い世代にはゲ
ーム感覚なのか、のみ込みが
早く感じられました。

場所を移してのチェーンソ
ー体験は、まず防護服を身に
着けます。チェーンソー操作
は県農林大学校の職員から丁
寧に指導を受けた後、1人ず
つ丸太を切ります。トップパ
ツターは女子生徒。初めてと
は思えない回転数を上げたエ
ンジン音は、山で仕事をする

人と同じ音でした。スパッと切っ
た後の「できた」と言ったその
顔は安堵感、達成感が入り混じっ
ています。1kgの重さを予想して
丸太を切る競争では、納得がい
かず再挑戦する生徒もいました。
高校生の若さあふれる姿と、感
覚や感情が味わえる体験に意義が
あると感じます。

県の特用林産物を知る 森の恵みでリース作る

午後からは県西牟婁振興局林務
課の職員から、和歌山県の特用林
産物は紀州備長炭やさカキ、しい

たけなどがあり、木材の売り上げ
を上回っていることや、龍神地域
の状況などの説明がありました。
最後はクリスマスリース作り。
リースの土台への取り付け方や材
料の名前などを説明し、後は個性
を出してほしいので聞かれた時の
みアドバイスします。

作業中に、生徒たちと「ナラ枯
れでドングリの木が枯れる」「シ
カが増えて植林地が荒らされてい
る」「女子も山で木を伐る仕事を
しているよ」などの話を交えなが
ら進めていきました。

・森の恵みである材料を使いなが
ら、山に繋がる気づきや感謝の
気持ちを持つてほしい。
・自然豊かなこの地で暮らす喜び
を感じてほしい。

生活する上でややもすれば利便
性を優先し、自然豊かであること
を後回しにされることがあります
が、右記のような自分の住んでい
る地域の良さに気づいてほしいと
願っています。

生徒からの感想

生徒からの感想では「緊張して
丸太を切るのは怖かったです、



丸太を切る作業に挑戦する生徒



県農林大学校の職員より安全装備の説明を受ける生徒たち

意外とうまくできました。林業を知ることができました」「チェーンソーやリース作りでとても楽しく学ばせていただきました」などとありました。

学校・県と連携したことで、生徒たちはチェーンソー体験など、私たちがでは出せない迫力ある体験もでき、より充実したと思います。将来、「林業」を選択肢の

1つとして捉えても
られることを願いま
す。

高校生に向けた 林業教室2

りら創造芸術高等
学校では、会員の山
にて自伐林業の話、
間伐、箸作り、スウ
エーデントーチ作り
等毎年内容を変えて
実施しています。整
備された山に触発さ

れるのか、山での仕事に興味を持
ったのか、予定の時間が過ぎても
生徒からの質問がたくさん出ます。
休憩時間にはお餅をスウェーデン
トーチの上で焼き、ぜんざい作り。
この時の会話は高校生との距離を
縮めてくれます。

今後の抱負や課題

今までの活動経験を生かしつつ
も現状に満足せず、若い会員の意
見を聞き、高校生の気持ちに寄り
添った取組を続けていきたい。そ
して、活動を通して会員間の信頼
を深め、いつまでも「この会がと



クリスマスリースの作り方の説明を受けながら、取り組む生徒たち

ても居心地がいいのよ」と言っ
てもらえる会を目指していきたい
です。

また、数年前から会員のグルー
プLINEを開設し、連絡や意見
交換だけでなく、アルバムに活動
報告を掲載し、欠席した会員にも
伝えるなど、工夫を重ねています。
今後活動が増加しても迅速に対応
できるよう、SNSなど新しいこ
とにも挑戦し続けていきたいです。

*まとめ

女性林研部会

会長 原見知子